



平成20年 4月15日

2	3	4	5	6	7	8
面	面	面	面	面	面	面
上	文化	文化	町の	ス	ひ	短
大	協	協	埋	ポ	と	歌
島	会	会	蔵	ー	・	・
ク	講	講	文	ツ	俳	川
ラ	演	演	化	情	句	柳
ブ	会	会	財	報	・	・
発					ペ	ン
表					ン	ン
					草	草



まつかわ百景 ⑳ 「御射山神社のしだれ桜」

満開を迎えた夕暮れ。
薄暗くなった社殿を背景に、光を放つように咲いていた。

昨年の大会には、町内の多くの団体、企業、個人よりご支援、ご協力を頂き360名もの参加があり、大会が盛大に開催できました。ありがとうございました。

さて、今年も第2回の大会の開催を7月20日(日)に予定しております。

3 km、5 km、そして、要望のありました10 kmコースを新たに加えて計画しております。3 km、5 km、コースは、清流苑をスタートし、くわぞの・まし野横断線(アルプス街道)を往復するコースです。

10 kmコースは、清流苑をスタートし上片桐町谷、むらやま公園を経て、くわぞの・まし野横断線(アルプス街道)を通るコースです。むらやま公園も整備が進み気持ちよく走れるかと思えます。また、このむらやま公園を日頃のジョギングの練習コースとして活用するの面白いかと思えます。

今、ランニングは全国各地で毎週末多くの大会が開催されております。東京マラソン、長野マラソンなどの大会は、

主張

第2回まつかわロードレース大会のお誘い

エントリーすら困難といわれるほどの人気であります。今回のロードレースも沢山の参加者が松川町へ訪れることが予想されます。町民の皆さんお仲間お誘いの上、早めにエントリーをお願いします。同時に実行委員及び大会当日のボランティアスタッフとしての参加も合わせて募集しております。

また、昨年好評であった町の特産品を今年もランナーの皆さんの副賞としたいと考えておりますので、是非ご協力をお願いします。昨年同様、会場内にはエイドステーションをもうけ野菜・フルーツの配布などランナーをおもてなしするようなブースを沢山、設けたいと考えております。

このまつかわロードレース大会を走った子どもたちから将来、優れたランナーが生まれることを願っております。最後に今年の大회는、多くのランナーを笑顔で声援し盛大に歓迎したいと考えております。

みなみ信州アルプスマつかわ
ロードレース大会実行委員長
原 実

平成19年度 公民館総括

盛り上がった活動

社会部長 米山春彦

『住みよい環境づくり〜あいさつから始まる地域づくり』と据えこの一年取り組んでまいりました。平成16年より取り組みを始め4年、本館部員の皆様、各地区公民館の皆様、本年は新たに社会を明るくする運動の皆様と、多くの皆様に御理解と御協力を頂き活動を盛り上げて頂きました。今後も多くの人とのつながりを築いていくうえで大切なくらい、形や手段は変わっても継続してまいりたいと考えております。

本年度の研究集会では「子どもを育む地域活動を考える」〜健康な心と身体づくりの食育活動〜と題し開催されました。集会の基調講演を成人講座として合わせて開催し、町民の皆様にも御参加頂きました。近年「食」に対する関心が高まる中、食育に関する事例発表を交え飯田市鼎公民館の鼎食

育サークルもぐもぐ隊の皆様

に講演頂きました。また、松川中学校血液検査の結果から生活習慣病予防に向けた食育への取り組み事例と今後の課題を報告頂きました。住みよい環境づくりの一環とし、新たに食育と言う環境について多くの課題が提起されました。人形劇場、映画会共に充実した内容で開催されました。町音楽祭も18回目を迎え本年は11団体延べ50名を越える大きな事業となりました。次年度は19回目となり、更に充実される事を願うと共に20周年に向けた取り組みも参加団体他関係の皆様とも協議して参りたいと考えます。



成人講座〜もぐもぐ隊の講演〜

この一年の終わりに：すべては皆様のおかげと心から感謝申し上げます。次年度も多くの皆様の参加協力を宜しくお願い致します。

今年度を振り返って

体育部長 宮澤武彦

去年の11月ころでしょうか。新聞の記事に「松川町のスポーツの取り組み」について三日間掲載されていました。

昔から松川町はスポーツが盛んで特に近年では小中学生の活躍が目立つようになり、公民館の会議でもたびたび話題になり、スポーツ好きの私としても嬉しいことだと思います。

さて、話題を戻して今年度の体育部の活動について振り返ってみます。今年度も「ニュースポーツの普及」をメインテーマとして活動してきました。新しい取り組みとして、「キンボール体験教室」を開催しました。（キンボールは駒ヶ根市・飯田松尾地区などではリーグ戦が行われています。）また地区館行事に参加してのニュースポーツの紹介や、県民スポーツフェスティバルに参加して体験した

ニュースポーツを紹介するなどの活動を行ってきました。まだまだ町民の皆さまに浸透しているとは言えませんが、これから地道な活動で普及させていきたいと考えております。

また今年度の新たな試みとしてファミリー登山を上片桐地区館と共催で小八郎岳に登りました。大勢の皆さまにご参加頂き、大変盛り上がりました。来年度もこのような共



スポーツフェスティバル

催行事が出来るように計画したいと思えます。

毎年恒例のトランポリン教室・駅伝大会には大勢の皆さまにご参加頂きありがとうございます。駅伝大会においては、来年に向けてさらに安全・充実した大会にしたいと考えております。飛び入りでお手伝い頂いた高校生、多く

の大会役員、交通整理員、ボランティアの方々には大変感謝しております。ありがとうございます。

皆様からの声を 力にして

編集部部长 宮下和子

今年度の館報は1面の「まつかわ百景」8面の視点「町の古民具」をカラー写真のシリーズ。「人権問題を考える みんなでなかよく」シリーズも昨年同様続けてまいりました。

1面のカラー写真は平成14年からの千支シリーズを新年号に、新成人の希望あふれる集合写真を9月号に掲載するのも同様に行いました。

町広報との合冊から2年が過ぎましたが、それに対する多くの声もいただき、皆様の関心も徐々に高まってきていると嬉しく感じました。

取材に伺い記事にまとめる事に重点をおいて参りましたが、皆様からのお話しをよくお聞きし大切な点を書き漏らす事の無いように務めて参りました。

皆様の声は館報編集に携わる者にとっての天の声です。是非、多くの声をお寄せ下さい。

田 参加しやすい 行事とは

主事 松下 聡

今年度から主事としてお世話になり、わからない事ばかりでしたが、何とか一年が過ぎました。生田地区協議会では大きな行事として、10月の「町民運動会」、2月の「芸能文化祭」の二つです。この時に生田地区区民の方が集まって下さいますが、今年は運動会が雨で中止となり文化祭のみとなってしまいました。その文化祭も前日の雪の影響なのか、例年よりお客さんが少なかったように感じました。しかしそんな事は吹き飛ばすような盛り上がりでした。

味の店には公民館のおでん



芸能文化祭

とトン汁の他に、地元商店の食べ物・お酒が並び、観て・食べて・飲んで・微笑んで・楽しいひとときを過ごしていただけたと思います。

地区の方々にとりでも多く参加していただけるように、運動会・文化祭の開催日を検討してみたいと思います。

最後になりましたが、活動にご協力いただきました役員の方々と、それぞれの立場で支援してくださった皆様からお礼申し上げます。

大 島 地域一丸の運動会実現を 大島地区協議会活動報告

主事 山口 克幸

大島地区協議会では7月に研究集会を開催しました。講演会では『草はらを作ろう』という演題で、社会教育委員長の堤先生に川路の天竜川総合学習館「かわらんべ」の活動の一環をご報告いただき、昔ながらの川をとりもどそう、川を教材にしながらの子供たちの自主性、親子のふれあいの大切

平成19年度地区協議会総括

さをご自身の経験談を交え講演をいただき各地区館の今後の活動のヒントとなりました。地区協議会最大のイベントである町民運動会でしたが、あいにくの雨天のため中止となってしまいました。開催できず残念ではありましたが、今年も参加した人たちが楽しかったと思える運動会にしよう、昨年の反省や係員会で出された意見を基にして、種目内容の一部変更を行い、更に楽しめるプログラムを作るこ

とができました。大島地区の町民が一堂に会し誰でも参加できるイベントは町民運動会しかないと思えますので、今後町民運動会をぜひ成功させて、大島地区を盛り上げていただきたいと思えます。

最後に運動会の準備、運営にあたりそれぞれのお立場でご協力をいただきました皆様方に心より御礼申し上げます。

上片桐 上片桐ならではの 公民館活動

主事 片桐 雅彦

上片桐村史によれば、昭和22年4月に上片桐村立上片桐小学校が発足し、それとほぼ同時期に公民館の活動なども始められたようです。村公民館として昭和24年に上片桐村公民館が設置されてから今年58年目ということになります。毎年恒例のフェスタぎおんは今年も晴れ！商工会商栄会の皆さんの協力により盛大に



フェスタぎおん

開催されました。年々参加者が増加しており、初夏の最初のぎおん祭として地区内外に定着しつつあります。

新規事業としては、夏にファミリー登山を本館事業との共催ではじめて行いました。この小八郎は、平安末期に当地に土着した片切小八郎大夫景重氏から名付けられたとされる山で、地区住民に親しまれています。児童から高齢の方まで約30名の方々に参加いただき、好天に恵まれ頂上では上片桐全域を展望することができました。

また夏季スポーツ大会は、雨天により室内で、大人から子どもまで同じルールで楽しめる公式ワナゲを実施しました。

そのほか、文化祭演芸祭、花いっぱい運動、絵手紙講座、歴史探訪など上片桐ならではの多くの事業が行われました。



公民館運営研究会

上大島 文化芸能祭

平成19年度
3月1日・2日・3日



平成19年度上大島文化芸能祭が3月1・2・3日の3日間に行われ、上大島公民館で開催された。
展示の部は3日間を通して弓道の大会は1日午前10時半より、2日の午後からは演芸の部が行われた。

展示の部

展示の部には、書道、絵画、写真、手芸など、クラブ活動を通しての出展や、個人の方々の出品がなされ、公民館を訪れた人達を楽しませた。



力作揃いの作品がズラリ

演芸の部

演芸の部では、小さなお子様から年配の方まで21グループの発表、26の演目があった。舞踊、歌謡、ダンス、太鼓など日頃の練習の成果を発表する姿がステージ上にみられた。他にも公民館男女役員による発表があった。又、1部2部の休憩時間には、来場者へ公民館女性部員より豚汁が振る舞われた。

弓道大会

小雪の舞う寒い中、公民館隣の弓道場で、松川町内、近隣町村から参加の方々により弓道大会が開かれた。

競技種目は、金的礼射、個人近的競技20射、団体競技を行い、技量をきそいます。参加人数は14名でした。

文化芸能祭にあたって弓道大会を開催した弓道クラブの皆さんに意気込みをうかがったところ「平均年齢74歳、まだまだ若い気持ち」精神を統一して「むかえは寒きを感じず、「武道の精神で的にむかって矢を射る」と語られ「当たっても外れてもその満足感はやっている人でなければわからないかもしれない」と話をされた。



的にむかって矢を射ります

地域とのつながりを大切に

文化芸能祭を通じて区民の皆さんにどのような事を伝えていきたいかを公民館部員に聞いたところ、「近所でもそれが何をやっているのかなかなかわからないところがある」文化祭に出展していただき、芸能祭で練習の成果を発表をしてもらって「地域・区民相互のつながりを大切にしたい」と話された。また、開催するにあたり、準備をすすめてきた上で気を配ってきたこと、力を入れたことを伺ったところ、「一人でも多くの区民の皆様文化芸能祭へ参加していただいて」参加した方々に「よかった、楽しかった」と言っていた。楽しんで準備をするように関係者ともに準備をしてきた。「毎年、演目がマンネリ化しないよう新しい演目をやっていただけの方をさがしています」と話をされ、「クラブ員以外の方の出展が今まで少なかった。個人個人の出展の依頼、お願いをしたところ、より多くの方に出展をしていただく事ができた」とのことであった。



太鼓の音がなり響きます

演芸の部、展示の部の双方に多くの人達が訪れ、鑑賞をし、楽しい時間を過ごした。事業に携わった人達の苦勞も報われたことと思う。



アツアツの手作り豚汁

文化協会講演会

動いている大地

松川町の断層と地形

両側を山脈に挟まれた伊那谷の地形。私たちが住むこの地の地形がどのように出来たのか、今もまた、どのように動いているのか。そんな疑問に答えるような講演会が、松川町文化協会の主催で2月26日に松川町資料館で開かれまし

た。この講演では「動いている大地」松川町の断層と地形」と題し、伊那谷の断層についてなど、専門家の話を聞きました。

講師は、高森町下市田在住の松島信幸さんです。松島さんは伊那谷自然友の会常任委員・飯田市美術館顧問をされており、理学博士でもあります。

地質や地形、断層の話といっても、全国的・地球規模の大きなデータを見ながらの話ばかりではなく、実際に松島さ



講師 松島信幸氏

んが自分の足で回り調べてきた事や、松川町内の具体的な場所を上げながらの話に、親しみをもちながら聞くことが出来ました。

日本は地球上の大きな4つのプレートの上にあり、それらのプレートの動きに影響を受けています。伊那谷とその両側の赤石山脈、木曾山脈は、その影響をハッキリと受けており、東西から挟まれるような力によって地面が盛り上がり、山脈が形成されたそうです。そのため、南北に伸びる断層ばかりが目立ちます。ただし、現在のところ東西からの圧縮力の集中地帯は伊那谷ではなく、北陸から近畿北部あたりだそうです。

興味深い話では、木曾山脈が形成される前の230万年ほど前の時代に、飛騨地方の水が天竜川まで流れてきていたのではないかという話もありました。その可能性が推測されるのは、福与・寺沢川に、飛騨と同じ『礫(れき)』があるからだそうです。あくまで

も推測ですが、「そう考えると夢がある」と、松島さんはうれしそうに語っていました。また、現在は部奈の北側を流れる小渋川は、かつては生田の中心に流れていたそうです。部奈から長峰までの範囲は、かつての小渋川がつくった扇状地であり、地面が隆起したことによって現在の形になっていきます。



うなずきながら話を聞くみなさん

聴講に訪れた皆さんは、自分たちの住む土地の地形がどのように出来たのか、想像を膨らませながら楽しく聴いている様子でした。

最後に、伊那谷の断層は、すぐに大きな地震を起こすような緊迫した状況ではないと一言があり、それを聴いて一安心。しかし、地震が不確実性に満ちていることは頭においておいたほうがよさそうです。

松川町の文化財

(348) 埋蔵文化財 (246)

松川町の中世城館跡

大島城(12) — 武田家臣団の起請文 —

教育委員会 酒井幸則

大島城の普請に先立つ4年前の永禄10年8月、信玄は弟の信廉、甥の信豊ら一族から有力武将、その配下となる武士や被官にいたるまで起請文を書かせました。その内容は、

信玄が兄弟はじめ一族や配下の武将全てから起請文を徴した理由は、長男義信の監禁、義信派家臣の粛正によって生じた武田家臣団の動揺を防ぐためでした。

以下に敵方に内通することのないこと、甲斐・信濃・西上野の者で異心を抱く者があっても自分は信玄に忠節を尽くす、などのことです。起請文は武田領国全域から徴され、連署を含めて87通、237名分が現存し、重要文化財に指定されています。

大島氏や片切氏は「神に誓って信玄を裏切らない」ことを記し、信玄に捧げたのでした。署名の下に押された血判から、戦国武将の並々ならぬ決意が窺われます。

この中に中伊那・下伊那の武士のものが10通あり、計20名が知られます。現在の松川町の地域の武将では、大島五郎左衛門長利、片切源七郎昌為、片切二兵衛尉為房が起請文を捧げています。

起請文は熊野牛王宝印(護符の一種)を翻し、即ち熊野牛王宝印の裏側に書

大島長利起請文 (生島足島神社文書)



大島長利起請文 (生島足島神社文書)

春らんまん 今日も元気にスポーツうらら

第16回 松川町混合ダブルス バドミントン大会

3月9日、町民体育館にて第16回松川町混合ダブルスバドミントン大会が行われた。参加32チーム(64名)が熱戦を繰り広げた。結果は次の通り。

- ブロックA
優勝 小原 拓也
北林 悠
(ジュニアB・C O B)
- 準優勝 澤井 大輔
尾曾 和美
- 第3位 湯沢 昂平
小木曾美希
(上片桐B・C)
- 相馬 洋介
井口きよ子
(松川B・C)
- ブロックB
優勝 松上 勇
中山真理子
(福与B・C)
- 準優勝 沢田 義光
水田 友美
(名子B・C)

第3位 木村 壮一
中川オルガ
(信州航空電子)

北島 義雄
山岸佐貴子
(上片桐B・C)

ブロックC

優勝 齊藤 和勇
宮下奈津美
(桑園B・C)

準優勝 米山 正彦
米山 圭子
(名中B・C)

第3位 下沢 清
山口 忍
(福与B・C)

川瀬 広美
山口真由美
(名子B・C)

松川町会長杯 マレットゴルフ大会

3月14日、台城公園マレットゴルフ場にて、松川町会長杯マレットゴルフ大会が行われた。(コース36ホール・パー144ストロークプレー)参加者

男子62名・女子38名の熱戦の結果は次のとおり。

男子の部

- 優勝 大沢 知 (108)
- 準優勝 大木島 巖 (113)
- 第3位 佐々木 優 (114)
- 第4位 田口 照男 (114)
- 第5位 川瀬 十藏 (115)

女子の部

- 優勝 山口 愛子 (112)
- 準優勝 北林 朝子 (115)
- 第3位 西沢 清子 (117)
- 第4位 佐藤 幸子 (118)
- 第5位 伊東寿美子 (119)

松川町ダブルス(ペア) マレットゴルフ大会

3月17日、台城公園マレットゴルフ場にて松川町ダブルス(ペア)マレットゴルフ大会が行われた。(コース36ホール・パー144ストロークプレー)参加者70名(男子48名・女子22名)の熱戦の結果は次のとおり。

優勝 唐沢 清隆

唐沢 みつ枝 (110)

準優勝 川瀬 十藏

川瀬 林子 (110)

第3位 佐々木 優

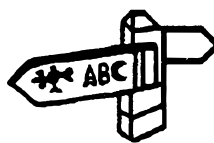
佐々木多津子 (111)

第4位 北林 昭雄

小原 逸 (112)

第5位 大木島 巖

竹上 伸 (113)



情報

弓道教室開催のお知らせ

対象者：中学生以上の学生・松川町にお住まい又は勤務の方は勤務の方
日時：4月15日より開始 毎週火・金曜日
夜7時より約2時間
場所：松川町弓道場(名子) 持ち物：胸にボタンの無いシャツを着用。(道具は町所有品が有ります)

情報をお寄せください

スポーツ大会の開催日程やその結果などをお寄せください。また、館報に載せたい様々な情報、館報へのご意見・ご感想もお待ちしております。
連絡先：松川町中央公民館
TEL 3612622へ

費用：スポーツ保険適宜
主催：松川弓友会
共催：松川町公民館
申し込みは中央公民館まで
TEL 3612622
近年、生涯スポーツとして弓道の愛好者が増加しています。また、青少年健全育成という観点からも『礼』に始まる武道が、注目されています。何歳からでも、始められ男女の区別もありません。またかなり高齢になっても続けられます。
高校や大学で弓道に親しんでいたが、現在中止している方、是非私たちの仲間になって下さい。
(松川町弓友会) 会長 白田和足



郷土の豊かな自然の恵みを伝えたい

宮下 智博さん



今回のひとは松川高等学校非常勤講師で、同校3年生の選択授業「環境緑化」を担当されている上大島西山の宮下智博さんです。

松川高校では生徒が選択する授業の講師を地元の農家に頼んでおり、宮下さんは前任の農家の方からの紹介により授業をうけもつ事になりました。

「環境緑化」では花壇と畑雑木林での体験を通じて、農業の大変さの裏にある楽しさなどを感じてもらえる様な授業を心がけているそうで「直接勉強にはつながらなくてもこれから社会に出た時にどこかで思い出してもうらえたら嬉しいです。」とおっしゃっていました。

宮下さんの本業はりんご専門

農家であり、父親の文雄さんとともに日々農事にたずさわっています。

農家、農業をやつていくためには、生産技術はもとより、経営や流通、接客についても知らないといけないと考えていることから20代のうちに色々経験しておきたいとの思いであちこち手を出しているとの事。

地域を担う農業者としても将来を嘱望されており、町若手農業者の会「若武者」会員として、また、一個人として各種研修、勉強会、視察に参加し、新たな分野への挑戦をこれからも欠かすことはありません。今後もしつその活躍が期待できます。

男女共同参画社会づくりのための意識改革を目的に「やりがいのある職場づくりをめざして」「災害から学んだ地域づくり」「男女共に支えあう地域づくり」の3講座を「男と女いきいき」

すぽっと

男と女いきいき講座

指導員 宮下 千波

反面、テーマが抽象的

でも好評でした。

講座」として、また、県の地域フォーラムへの参加も加え年間4講座を開講いたしました。

今年度の講座には、商工会、社会福祉協議会、地区公民館

らしいですねー」との感想を頂きましたが、半数以上が男性の講座となり、「男と女が共に学びあう有意義な講座となりました。」

また昨年までの講座を見直し、参加型の講座を増やしたところ、「和やかな雰囲気ですべてよかったです。」「分かり易い提示やワークがあつて楽しく学ぶ事ができました。」と、とても好評でした。

短歌

久保田 幸子

幼子は柄杓に水を汲み来ては蛙に掛ける飽きることなく

何度でも水掛けられて小蛙は逃げようともせず空を見ている

小蛙はピヨコリと池へ飛び込みて向こう岸へすいすい泳ぐ

幼な子は柄杓片手に持ちしまま蛙の泳ぎをじつて見ており

よし登り椅子より落ちてべそ掻くも幼は又も登らんとする

俳句

編集部有志

春の宵友を待ちつつ独り酒

野の原に小鳥さえづり水ぬるむ

新芽萌ゆすがしき思はずわらびもち

紅玉でつむ手を刺そうぼけの花

菜の花に童かくれてもういいかい

川柳

編集部有志

ガソリンを たまには満タン 入れてみたい

値上がりで おしおし使い マヨネーズ

ガソリン↓ 通勤代は 下げないで

男生まれ 己のトシを おもいしり

鼻が垂れ 瞳がうるみ 花粉知る

歓迎会 ここで覚える 酒の味

原油高 徒歩通勤で 減量し

毎号町民の皆様の俳句や短歌を掲載させていただいております。今回スペースの関係で、自分たちにもこのような作品ができないものかと編集部員が挑戦を試みました。実際につくってみると大変難しいことを実感しました。(編集部長)



町の古民具 ④ 油てんこ

視点

油を保存したもの。漆を施し、漏れるのを防いだ。



声

妊娠力を育てよう講演会

木下 由美子

3月16日(日)健康を考える集会主催で、東京都にあるこまえクリニック院長の放生勲先生による「夫婦で育む妊娠力」と題して講演会が開かれました。

3月16日(日)健康を考える集会主催で、東京都にあるこまえクリニック院長の放生勲先生による「夫婦で育む妊娠力」と題して講演会が開かれました。

内科診療と共に不妊カップルへのカウンセリングを行う

先生はお話の中で、女性の体は高齢になるほど不妊になる現実に対し、産む側である

この講演に対する関心の高さが伺えました。



放生先生

女性本人がそのことに理解がない現状について、「女性の社会進出」、「メディアの影響」、「学生に対する教育」を原因として取り上げていました。妊娠・出産適齢期の女性の意識の中から「子どもを産み育てる」ということが、「大切なもの」として持たれなくなってしまうたのではないか。結婚年齢の高齢化により、いざ子どもが欲しいと思ってもなかなか出来なくなってしまう。それに対して不妊治療の対応は、30代と40代では大きく違ってしまい、不妊治療による精神的ダメージの大きさも影響することをふまえ、真の意味での少子化対策をするのであれば、医療と並行して学生に対する教育のあり方がとても重要になってくるとお話されています。

放生先生の講演は、とても内容が濃く、学ばせて頂くことが沢山ありました。今回、私達心あるお産を求める会は共催という形で参加させて頂きました。「親世代」である健康を考える集会の方々と「子世代」の私達が一緒に取り組ませて頂いたことは、これからの地域医療、少子化問題を考える上でとても大きな意味があったと感じております。今回の講演会のテーマにもありました「子どもの声がいっ



真剣に聴きいる人々

ばいの地域作りを目指して、これからも地域の皆様とともに取り組んでいくことが出来ればと思っております。



草

マリ方(ほう)のおばあちゃんが亡くなりました。子供の頃に近くにいた親戚のおばあちゃんに似ていた可愛がっていた犬の名前。どういう関係の親戚か子どもだっただけには理解できないかと思いついて母が教えてくれた呼び方です。

小さかった私が覚えていたのは寝たきりのおじいちゃん。母に連れられて行くといつも煮物と漬物とお菓子が出てきて楽しい話をたくさん聞かせてくれました。

おばあちゃんは自分の年齢(トシ)を考え周りに迷惑をかける前にと老人施設に入りました。母と訪ねると小綺麗に片付けられた部屋でお茶を出してくれたのは昔のとおりでした。そんなおばあちゃんの最後は子供がなかったため本当に近い親戚だけで簡素に済ませようという私にとって寂しいものになるはずだったので...。前の組合の皆さんが、お世話になったのに何もお返しできなかったからとお通夜に大勢参列して下さいました。

皆さんに送られておばあちゃんも幸福に逝けたことでしょう。感謝
宮下和子

公民館報
「まっかわ」
第 534 号
平成20年4月15日

発行所 松川町公民館
責任者 松村直彦
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)